



日本バチカン国交樹立75周年を迎えて

駐バチカン日本国特命全権大使

中村 芳夫

日本とバチカンは太平洋戦争が勃発した翌年の1942年に国交を樹立させたため、2017年には両国の国交樹立75周年を迎えました。この区切りの年に、在バチカン日本国大使館としても、日本とバチカンの友好関係を一層発展させるための取組みを行います。

なお、「75年」は中途半端だと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、キリスト教徒がローマを巡礼して祈りを捧げる「聖年」は、15世紀以降は25年ごとに行われることになっているほか、「4分の1」という区切り方は欧米でしばしば見られる区切り方であり、「4分の3世紀」にあたる「75年」も意味のある区切りと考えます。

そもそも、日本とカトリック教会との関係は、460年あまり前の1549年に、イエズス会士フランシスコ・ザビエルが日本の南端にある薩摩の国を訪れたことに始まり、それ以来、長い交流の歴史があります。

日本からは、1585年に天正遣欧少年使節、1615年に慶長遣欧使節がバチカンを訪ねて、当時のローマ法王に拝謁しています。しかし、徳川幕府はキリスト教信仰を禁止し、1644年以降、日本にはカトリックの司祭は一人もいない状況になり、交流が中断しました。その後、1868年に明治政府が成立するとともに鎖国が解かれ、1873年には「キリシタン禁教令」も廃止され、信仰の自由が認められることになりました。

現在、日本のビジネス界はバチカンとも関係を築いています。バチカン図書館が所蔵する約8万冊の手書き文献をデジタル化する事業が現在進行中ですが、この事業を日本企業が請け負っているほか、1994年に完成したシスティーナ礼拝堂のフレスコ画の修復事業でも、日本の民間テレビ局が協力しました。さらに、2015年には、日本企業がバチカン図書館との共催で、東京において「バチカン教皇庁図書館展」を開催するなど、文化分野を中心に、日本企業もバチカンとの関係を構築しています。

当館及び当館に御協力頂けるいくつかの組織は、日本バチカン国交樹立75周年を記念し、歴史シンポジウムやバチカン勸進能公演など、両国関係の促進や日本文化紹介を目的とする各種事業を計画しています。もう一方では、日本の皆様にもバチカンのことをもう少し詳しく知って頂く機会を作りたいと考え、バチカン及び日本の旅行業社様にも御協力をお願いして、いくつかのバチカン紹介事業を実施しています。

これら様々な事業を通じて、75周年を迎えた両国の関係が一層発展し、また、日本国民の皆様がバチカンに対する関心が高まり、理解も一層進むことを心から祈念いたします。